

大城さゆりさん

読書感想文全国 コンクールで内閣 総理大臣賞を受賞

第52回青少年読書感想文全国コンクールにおいて全国29347校、4362025作品の応募の中から県立開邦高校に通う字友寄の大城さゆりさんの作品が選ばれ最優秀賞に当たる内閣総理大臣賞を受賞しました。2月9日には、東京都内で表彰式が行われ高校生の部において谷本龍哉内閣府大臣政務官から表彰状が手渡されました。入賞が発表された時は、「あまり実感がわかなかった。表彰式や表彰祝賀会を通



岡本太郎の「美の呪力」
の感想文を書き上げた
大城さゆりさん

して有名な方々から祝辞の言葉をいただいていたのはじめて実感ができた」と話す大城さん。今では、友だちの間から「総理」と呼ばれ親しまれています。幼い頃は、小学1年生まで読み書きができませんでした。幼稚園の頃の宿題で紙芝居を作り上げたことで絵や本にも興味を持ち中学生の頃からは、積極的に読書をするようになったとさゆりさんのお母さんは、話します。大城さんは「読書は、映像からは、読みとれないもので教えることができます」と読書を通して考える力や創造力がついたと話します。高校を卒業後は、県立芸術大学で美術学を専攻することが決まっています。「主に研究が中心のコースですがこれまでと違った視点で絵画を学びたいです」と大学の勉強にも目を輝かせていました。

町民が気分良く役場を訪問できるように



神里富次さん

黒木(くるち)という愛称でよばれるリュウキュウコクタンは、旧東風平・具志頭の町・村木として指定されるなど町内でも親しみのある木の一つ。樹形がきれいなことから円形にカットしたりして庭木に植えられているのをよく見かけたりします。役場本庁舎前にも8メートルにもなる立派な黒木が植えられています。しかし、あまりにも大きいためになかなか手入れができずじまいでした。そんなところに神里富次さんと仲原親久の二人が剪定をボランティアとして買って出てくれました。

「役場を訪れる人たちが綺麗に剪定された黒木をみて気分良くなってほしい」と話す神里さんは、全体のバランスを確かめながら一枝一枝を慎重に切っていきます。また、週末のボランティアが日課になっているという仲原さんは「花の手入れは趣味の一つですよ」と笑顔で話します。作業は、朝の9時から午後の3時まで約6時間もかかりましたが、見違えるようにきれいに仕上がった黒木に二人とも満足そうでした。



仲原親久さん

気管挿管救命士 誕生で救命率をUP



屋比久学さん

島尻消防、清掃組合消防本部(比屋根陽文消防長)では、2人目の気管挿管(気管に管を通して呼吸をしやすくする方法)実施認定救命救命士、屋比久学消防士長が誕生しました。現在、先に沖縄県第1号の気管挿管と薬剤投与認定救命救命士の嶺井一也消防士長と合わせ2名が、医師の具体的指示の下で気管チューブによる気道確保が実施できるようになりました。南部徳洲会病院の御協力により、気管挿管病院実習は、随時、当消防の救急救命士を送り実習を進めているところです。今後さらにメデイカルコントロール体制の下、消防職員は、自己研鑽に励み、地域住民の救命率を上げるべく努力、精進していきます。

防災応援

協定を締結

さらなる
きずなを深める



防災応援協定を結び握手をする
仙頭市長(左)と中村町長



町議会議員からは、
「汗水節」を披露



土佐絵金歌舞伎伝承会に
よる「こども絵金歌舞伎」。
会場の笑いを誘いました

昨年11月に高知県香南市と姉妹提携を結んだ本町は、1月19日、香南市夜須町の夜須マリンホールにおいて姉妹都市提携披露記念式典を開催し、その中で自然災害で被災した場合に支援しあう防災応援協定を結びました。八重瀬町からは、町長他、町議員、町関係者34名が調印式に出席し、中村町長と仙頭義寛香南市市長が、協定書に調印しました。協定の内容は、被災市町の被害が大きく援助が必要と判断される場合には、相手側の要請がなくても自主的な援助活動をできる積極的なものになっています。仙頭市長からは「防災応援協定締結を契機に結びつきをさらに深めていきたい」とあいさつ。一方、中村町長からは、「支援体制を築くことできずなを深め多様な面で交流の場を広げていきたい」とあいさつがありました。

調印式の後には、高知県から「居合」「日本舞踊」「こども絵金歌舞伎」など多彩な芸能が披露され、お持てなしを受けると八重瀬町からは、議員の方々による「かぎやで風」「汗水節」など沖縄の芸能が披露され会場のお客さんから大きな拍手がわき起こっていました。

2月13日、役場本庁舎において昨年6月に町長から諮問のあった町旗制定について町章・町花等検討委員会の金城繁雄委員長から答申がなされました。町章は、昨年12月に決定していたところでしたが、町旗については、第6回・第7回の委員会で慎重に審議した結果、町旗には町章のデザインをそのまま用いること、旗の地色を薄紫色とすること、町名を表示する必要がある場合には、白色の文字で、かい書を用いることを決定し、答申がなされました。八重瀬町では答申を受け、内容を確認し、2月14日に八重瀬町旗制定を告示しました。

答申を終え金城委員長は、「多数の意見を集約するのは、大変でしたが時間をかけて審議した結果全員が一致して決めることができました。卒業式の掲揚には間に合って良かった。子供たちには見たままに感じ取ってほしい」と話しました。

象徴の旗「町旗」を決定



町旗が決まり中村町長(左)に
金城繁雄委員長から答申がされました

行政対象暴力を排除

対策は法律遵守と説明責任

「八重瀬町における行政対象暴力の排除に関する協定書」について調印式が1月24日、役場本庁舎で行われ、中村町長と渡具知辰彦糸満警察署長が署名・調印を行いました。行政対象暴力とは、暴力団などが不正な利益を得る目的で、地方公共団体等の行政機関の職員に対して暴力、威迫する言動、その他の不当な手段により、違法又は不当な行為を要求することをいいます。渡具知署長は、「行政対象暴力を排除していく対策として、行政職員個々人が法律遵守の徹底と十分な説明責任を果たしていくことが大切」と話しました。

